

教科	プログラミング技術	単位数	2	学科・学年	電子情報科・2年				
使用教科書	プログラミング技術 実教出版	副教材		2級情報技術検定試験標準問題集 平成25年度版					
到達目標（具体的な取組【評価規準を念頭に置いた指導上の留意点】）					評価の重点				
コンピュータのプログラミングに関する基礎的な知識と技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を育てる (1) コンピュータによる問題処理手順 (2) プログラミング技法 (3) 応用プログラム					関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
学期	月	学習項目 (単元名、教材、学習領域)	主な学習活動・評価のポイント		評価方法				
前 期 中 間	4	第1章 コンピュータによる問題処理手順 システム開発とプログラムの作成	システムを開発するために必要な基本的事項を作成したりする必要がある。プログラムの作成について学習させる。		観察記録 自己評価 定期考査	○	○	○	
	5	文書化	システムの開発・運用・維持のために必要事項を整理し、文書として残しておく必要がある。必要事項を整理し、文書として残しておくことについて学習させる。		定期考査			○	○
	6	OSとプログラム言語	ソフトウェアとハードウェアの関係を理解し、ソフトウェアの種類や機能について学習させる。						
前 期 末	6	実行可能プログラム	プログラムの実行可能プログラムに変換する過程について学習させる。		観察記録 自己評価 定期考査	○	○	○	
	7	第2章 プログラミング技法 基本的なプログラム	プログラム言語Cの特徴およびCによる基本的なプログラムについて学習させる。		定期考査	○	○		○
	8	プログラムの制御構造	プログラムの流れを変える制御文として分岐や繰り返しなど、基本的な事項について学習させる。						
	9	配列とポインタ	データを効率的に扱うための配列およびメモリの直接的な操作を行うことについて学習させる。						
後 期 中 間	9	関数	Cの特徴として、関数を用いてプログラムの効率よく作成するための基本的事項について学習させる。		観察記録 自己評価 定期考査	○	○	○	
	10	標準化とテスト技法	プログラム技法を活用するためのテスト技法およびプログラムを標準化する方法について学習させる。		定期考査			○	○
	11	第3章 応用的プログラム テーブルとファイルの利用	テーブルを取り扱うための配列や構造体およびファイルを扱うための配列や構造体について学習させる。						
学 年 末	11	ネットワークの利用	ネットワークに接続されているコンピュータを使って行うファイルの転送および遠隔操作について学習させる。		観察記録 自己評価 定期考査	○	○	○	
	12	制御用ICの活用	入出力インターフェースに関する基本的事項を学習させ、制御についても学習させる。		定期考査	○	○		○
	1	グラフィック	マルチウインドウに対応したコンパイルの基本的事項について学習させる。						
	2								
	3								